

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う動きか

[8月29日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月22日～8月26日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	136.94	137.71(23)	135.82(23)	136.93	-0.04
ユーロ・ドル	1.0039	1.0047(22)	0.9901(23)	0.9966	-0.0071

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	28,641.38	-288.95	日本10年債利回り	0.225	+0.023
ダウ平均株価	33,291.78	-414.96	米10年債利回り	3.026	+0.054

=====

<来週の主要経済統計等>

- 29日 豪7月小売売上高
日本6月景気動向指数改定値
- 30日 日本7月雇用統計、日本7月有効求人倍率
豪7月住宅建設許可件数
独8月消費者物価指数速報値
カナダ第2四半期経常収支
米6月住宅価格指数、米6月S & Pケースシャー住宅価格指数
米8月消費者信頼感指数 (コンファレンスボード)
- 31日 日本7月鉱工業生産指数、日本7月小売業販売額
中国8月製造業購買担当景気指数
スイス8月K O F先行指数
独8月雇用統計
ユーロ圏8月消費者物価指数
米8月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 中国8月財新製造業購買担当景気指数
スイス8月消費者物価指数、スイス7月小売売上高
独8月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月製造業PMI確報値
英8月製造業PMI確報値
ユーロ圏7月雇用統計
米新規失業保険申請件数、米第2四半期非農業部門労働生産性指数
米8月製造業PMI確報値
米8月ISM製造業景況指数、米7月建設支出
- 2日 独7月貿易収支
ユーロ圏7月生産者物価指数
米8月雇用統計
米7月製造業受注

【前回のレビュー】FRBによる利上げ姿勢の継続はドル円の下支え要因となる。ただ、米国でのインフレのピークアウト感や景気減速への警戒感からすると、140円乗せを視野に上昇するような強さはない。こうした中、ドル円は底堅い推移が継続するとした。

【ジャクソンホール会議に注目】

ワイオミング州ジャクソンホールで、8月25～27日に米カンザスシティ連銀が主催する経済シンポジウム (ジャクソンホール会議) が開催される。26日には日本時間の23時から、米連邦準備制度理事会 (FRB) のパウエル議長が講演を行う予定とな

っている。

この講演を前にパウエル議長が金融引き締めに積極的な姿勢を示すとの見方が広がり、米国株は大きく売られるとともに、米長期金利が上昇して、ドルも買われる結果となった。ドルインデックスは8月23日に109.27近辺まで上昇を見せた。ドル円は23日に137.71近辺まで上昇した。

CME FEDウォッチでは、9月のFOMC（20～21日）での0.50%の利上げ確率は40%程度、0.75%の利上げ確率は60%前後となっている。パウエル議長の講演に加えて、それまでに米雇用統計、米消費者物価指数ともにもう一度ずつ発表を控えており、実際の利上げ幅は今後の経済指標の動向に左右されそうだ。

9月1日には8月の米ISM製造業景況指数、2日には8月の米雇用統計の発表がある。米国の経済指標では、米長期金利の上昇を背景に住宅関連指標の減速が目立つ。住宅以外の分野で、景気動向がどう変化してくるのかに市場の注目が集まる。

25日にアトランタ地区連銀のボスティック総裁は、インフレがピークに達したと判断するのは時期尚早との見解を示した。また、9月のFOMCでの利上げ幅は0.50%か、0.75%か決めていないと発言した。雇用情勢が堅調で、インフレ率が低下しない場合は0.75%の利上げが必要になる可能性に言及した。

10日発表の米消費者物価指数（7月）、11日の米生産者物価指数（7月）、12日の米輸入物価指数（7月）はいずれも事前予想を下回り、物価のピークアウトを感じさせる動きとなった。ただ、水準そのものはかなり高く、利上げ継続姿勢は継続するとみられる。

FRBによる利上げ継続姿勢に変化はなく、ドル円をサポートする要因となりそうだ。ドル円は23日に137円台後半まで上昇した後は、伸び悩みを見せている。ドル円は底堅い動きを見せながら、緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、135.00～139.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8月29日に日本6月景気動向指数改定値、30日に日本7月雇用統計、日本7月有効求人倍率、米6月住宅価格指数、米6月S&Pケースシラー住宅価格指数、米8月消費者信頼感指数（コンファレンスボード）、31日に日本7月鉱工業生産指数、日本7月小売業販売額、米8月シカゴ購買部協会景気指数、9月1日に米新規失業保険申請件数、米第2四半期非農業部門労働生産性指数、米8月製造業PMI確報値、米8月ISM製造業景況指数、米7月建設支出、2日に米8月雇用統計、米7月製造業受注などがある。

【ユーロドルは一時的に戻しても売りに押されやすい展開か】

ユーロドルはパリティ（1ユーロ＝1ドル）割れの後、0.9901近辺まで下落したものの、その後は下げ渋りの動きを見せている。パリティ割れまで下落したことで、押し目買いの動きなどが広がったようだ。もっとも戻りの動きは限定的で、パリティ回復は一時的な動きにとどまっている。

ユーロ圏の景気の先行き不透明感やロシアからの天然ガス供給への警戒感を背景にユーロドルは上値の重い展開を続けている。ユーロドルは一時的に上昇したとしても、戻りの動きは限定的になりやすいとみられる。戻したところでは売りに押されて、再び下落基調で推移する可能性が高そうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9700～1.0200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に豪7月小売売上高、30日に豪7月住宅建設許可件数、独8月消費者物価指数速報値、カナダ第2四半期経常収支、31日に中国8月製造業PMI、スイス8月KOF先行指数、独8月雇用統計、ユーロ圏8月消費者物価指数、1日に中国8月財新製造業PMI、スイス8月消費者物価指数、スイス7月小売売上高、独8月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月製造業PMI確報値、英8月製造業PMI確報値、ユーロ圏7月雇用統計、2日に独7月貿易収支、ユーロ圏7月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。